授業科目	英語教科教育法Ⅳ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	西原　真弓						
授業概要	これまでに履修してきた専門教育科目や教職に関する科目等の中で学んだことを活かし、中学校及び高等学校に教育実習に行ったときに、教師として自信を持って指導ができるようになるため、学生自身の理解の総括を目的としています。英語教育に影響を与えている理論に関する知識の再確認をしながら、生徒の実践的コミュニケーション能力の育成の手助けとなり得るような指導技術を身につけていきます。						
授業形態	講義・演習			授業方法	ディスカッション、部分的模擬授業		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 各種指導技術の基本が理解できる。 2. 指導案についての基本を理解し、作成することができる。 3. 目標に沿った授業を計画し、それを実施することができる。
理想的レベル	1. 各種指導技術が理解でき、効果的に利用できる。 2. 指導案についてその目的と内容を深く理解し作成することができる。 3. 目標に沿った授業を計画し、それを効果的に実施することができる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	授業を通して学習したことの理解度を測ります。
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%	授業内での模擬授業やディスカッションへの貢献度を評価します。
レポート外の提出物	20%	メタ認知力を目指した課題の取り組み状況を評価します。
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN34112J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習：　当該部分の予習 復習：　学習内容の復習と発展的な自主学習 自分の弱いところを認識し強化するための学習	4

授業計画	
第 1 回	評価法について
第 2 回	指導と評価の一体化の具体化

第 3 回	自己表現活動を組み込む教育的意義
第 4 回	表現意欲を高める言語活動の工夫と組み立て
第 5 回	自己関連性を高めた活動を通して身につける思考力・判断力・表現力
第 6 回	自己表現を支える４つの要素①：信頼感を深めるための環境づくり
第 7 回	自己表現を支える４つの要素②：感受性を高めるための教材と活動
第 8 回	自己表現を支える４つの要素③：想像力を高めるための授業展開
第 9 回	自己表現を支える４つの要素④：英語力を高めるための支援
第 10 回	教科書に沿った自己表現活動
第 11 回	PBL の指導法
第 12 回	文法を発展的に取り扱う模擬授業
第 13 回	学習目標に応じた言語活動（模擬授業）
第 14 回	主体的・対話的で深い学びを追求した模擬授業
第 15 回	試験及び総括
テキスト	田中武夫・田中知聡著『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』（大修館書店）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『小学校学習指導要領解説外国語活動編』（平成２９年）（文部科学省） 『中学校学習指導要領解説外国語編』平成２９年）（文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説外国語編』（平成３０年）（文部科学省）
課題に対するフィードバックの方法	試験は採点して、後日返却する。 模擬授業やディスカッションでの発言内容や姿勢については随時コメントをする。 自身の学習計画を立てて行う自律学習にはコメントをつけて返却する。
学生へのメッセージ・コメント	主体的に教育について考えてください。ディスカッションを通して英語教育に様々な事項について理解を深めることができるよう毎回授業に来る前に必ず教科書の該当部分を読んで、自分なりに調べ意見を持って授業にのぞんでください。 教育実習に行くのに必要な英語力の向上のために、自分が不得意なところを見つけ、主体的に学習をしてください。また、人にわかりやすく説明ができるように学習しておいてください。